

## 01 気仙沼中学校

主なESD領域

環境

## 環境教育「自然の豊かさを感じよう」

－大島環境体験学習－

## 1 実践の概要・ねらい

- 自分たちの住んでいる環境について学ばせ、自然に対する関心を高めさせる。
- 地域の自然を素材とした体験学習を通して、自然の豊かさ、自然を守る必要性に気付かせる。
- 地域の自然環境に関する学習を通して、国際的な環境問題に視野を広げさせ、実践的な態度を育成する。

## 2 実践計画

－大島自然体験活動－

■コース別体験学習 **選択**

- 地域素材をいかした食材を活用し、調理することで、自然の豊かさなどを身をもって感じさせ、自然を大切に、環境を保全しなければならないことを実感させる。

■<sup>くぐり</sup>十八鳴浜自然観察体験 **全員**

- 自然環境保全の象徴でもある、十八鳴浜の鳴き砂を自分の五感を使って体感することで、環境保全の重要性と難しさを体感させる。

## 大島体験学習コース一覧

Aコース・・・イカ塩辛作り

Bコース・・・さんま燻製作り

Cコース・・・ユズ入りトコロテン作り

Dコース・・・ユズ入りアイスクリーム作り

Eコース・・・塩作り

## 実践の評価について

- ◎地域素材をいかした食材に関心をもちながら調理に積極的に取り組むことができたか。(観察)
- ◎自然の豊かさなどについて身をもって感じ、自然を大切に、環境を保全しなければならないことを実感することができたか。(学習プリント)
- ◎自然環境保全の象徴でもある十八鳴浜の鳴き砂を積極的に体感することができたか。(観察)
- ◎環境保全の重要性を実感することができたか。(学習プリント)

## ◆地元食材を使用した創作料理の考案と調理



創作料理の考案



創作料理の調理

## 3 今年度の実践

## 計画からの追加・変更点

## ■活動Ⅰ 大島自然観察体験

- 大島での自然体験活動に、亀山リフトを活用した「リアス式海岸空中散歩」を追加。
- 活動のまとめとして、班ごとに模造紙にまとめたり、文化祭で体験を基にした創作劇の発表をしたりした。

## ■「活動Ⅱ 地元食材を使用した創作料理の考案と調理」の追加

- 地元食材を使用した創作料理の考案と調理・試食を行い、市で開催される「プチシェフコンテスト」へ作品を応募した。

## 実践の成果

## －活動Ⅰ(大島自然体験活動)－

■コース別体験学習 **選択**

- 地域の自然食材を利用した調理体験は、生徒に豊かな自然の恵みを実感させ、自然を保全していくことの大切さに気付かせることができた。
- さらに、大島のコース別体験から海からの贈り物(恵み)としての地域食材の意識が高まり、創作料理の考案と調理を意欲的に行うことができた。

■<sup>くぐり</sup>十八鳴浜自然観察体験／リアス式海岸空中散歩 **全員**

- 大島での空中散歩や十八鳴浜での鳴き砂と海のふれあいは、生徒に自然の美しさや神秘性をあらためて実感させることができた。また、郷土に対する誇りを高め、愛情を深めることができた。
- 「鳴き砂講話」では、講師の先生から砂が鳴く条件を聞き、鳴き砂について理解を深めるとともに、鳴き砂は海の公害のパロメーターとも話されたことで、環境保全の大切さを考えることができた。

## ■活動のまとめ

- 体験活動のまとめと自然や環境問題・環境保全について考察することができた。また、模造紙へのまとめを通して、環境問題や環境保全に対する考えを深めることができた。
- 地域の食材の豊かさは、自然の恵みであるということを昔から伝わる「皆鶴姫」の物語を軸にした気仙沼弁での創作劇を文化祭で発表したことで、観衆に地域の良さと自然保全の大切さを感じさせることができた。

## 次年度への課題

- 豊かな自然を実感できる体験を通して自然を大切にしなければいけない意識を新たにすることができたが、実践する態度を育てる活動を教育活動全ての中で工夫していくことが大切だと考える。
- 自然の美しさを感じる活動や環境保全に関する事柄について、各教科や領域の指導事項との関連をおさえ、横断的・総合的な指導を一層推進していく必要がある。

## ◆大島自然体験活動



コース別体験学習「イカ塩辛作り」



コース別体験学習「塩作り」



十八鳴浜自然観察体験「鳴き砂講話」



リアス式海岸空中散歩



活動のまとめ「創作劇の発表」

## 自然環境の保全のために取り組むべきことを探る

### 1 実践の概要・ねらい

自然環境の保全のために取り組むべきことを探る。

### 2 実践計画

#### ■ 教科、道徳、特別活動、総合的な学習の時間での取組

| 教科   | 環境問題に関連する単元や題材の中で、環境保全の重要性を理解させる。                                                                         |
|------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 道徳   | 環境問題に関連する単元や題材の中で、環境保全の重要性を理解させる。特に、「自然に対する畏敬の念」「生命の尊重」「勤労・公共の福祉」の項目に力を入れて指導し、「自然の愛護」「郷土愛」「人間愛」などの意識を高める。 |
| 特別活動 | 委員会活動では、環境委員会や福祉委員会を中心に、環境保全に関する取組を行う（ブルタブ集めや使用済みテレカ集めなど）。学級活動では、環境に関する指導項目を重視し、自主的に活動する意欲を高める。           |

#### ■ さくら学習（総合的な学習の時間）

「さくら学習」の内容のひとつである講座学習において、環境に関する講座を開設する。講座学習とは、5月から10月(文化祭)までの半年間(週2時間ずつ計35時間)、全校縦割りで行う学習である。テーマ別に組織した講座(10程度)ごとに体験学習や調べ学習を行うことで、文化・社会・自然、そして人とのふれあいを通して学び方やものの考え方を身に付け、生き方を見つめ探究活動に主体的に取り組む態度を育成する。

##### 平成21年度開設講座の例

| 講座名           | 主な活動内容                                                       |
|---------------|--------------------------------------------------------------|
| 「食材を探る」       | 自ら育てたものを自らで消費するという地産地消の実施                                    |
| 「ゴミと5R」       | 環境とゴミ(資源)・5Rについての講話や、クリーンヒルセンターの訪問・見学、牛乳パックなどを活用したリサイクル工作の実施 |
| 「リサイクル・メイク」   | 家にある使わなくなった衣服等を使って、再利用できる被服、小物作りの実施                          |
| 「身近にできるECO活動」 | 気仙沼の環境問題について調査し、自ら実践できるECO活動について考察                           |
| 「郷土の民族」       | 気仙沼や宮城県の生活文化に関する調査                                           |

##### 今年度開講予定講座

「リサイクル・メイク」講座／「郷土の民族」講座／「気仙沼の環境を考える」講座／「食材を探る」講座

#### ■ 各学級での取組(新聞記事切り抜き)

さまざまな「環境問題」に関心をもたせるとともに、地球全体の環境保護という視点に立って生活していく態度を育てるために、全クラスに毎日配布される新聞の中から環境に関する記事を切り抜かせる。また、模造紙に貼りつけ、廊下等に掲示する。

#### ■ その他の取組

##### 環境保護活動に深くかかわっている方の講演会

環境保護活動に深くかかわっている方々を講師に招き、講演会を実施する。

##### 環境に関する各種コンクールへの応募

本校生徒にとって最も身近な自然である「海」をテーマに、海と自分とのかかわりや、海と地域の人々とのかかわりについて考えさせ、作文や絵画で表現させる。

##### 環境委員会

美化委員会を環境委員会と改名し、学校周辺の美化活動のみならず、自然環境の保全に貢献できる活動を行っていく。

##### 実践の評価について

◎生徒の変容についての評価・検証

- さくら学習の講座において、実践前後に自己評価をさせる。内容については、生徒の変容が分かりやすいように選択回答部分と記述回答部分を設定する。

◎教師や保護者の意識の変容についての評価・検証

- 教師、保護者とも実践に関するアンケート調査を行い、4段階で評価し、検証する。

### 3 今年度の実践

##### 計画からの追加・変更点

#### ■ 「さくら学習」開設講座について

今年度は以下の4講座を実施した。

| 講座名          | 主な活動内容                            |
|--------------|-----------------------------------|
| 「リサイクル・メイク2」 | 使わなくなった物や衣服等を使った、再利用できる被服、小物作りの実践 |
| 「産業」         | 校地内を開墾し、野菜を育てる活動を通して、地産地消の考えを育成   |
| 「国際理解」       | 外国の料理を通して、その国々の特産物や特徴の理解を深める      |
| 「鹿折の環境」      | 鹿折川の水生生物や水質調査の実施                  |

#### ■ 環境保護活動に深くかかわっている方の講演会について

環境保護活動に深くかかわっている方の講演会を今年度は実施せず。

##### 実践の成果

- リサイクルにかかわる活動を通して、資源の有効利用を考える態度を養った。
- 他地区のESD指定校との交流を通して、本校の取組について振り返ることができた。
- 地産地消の大切さを実感させることができた。
- 地域の特徴をよく理解し、環境を保全する態度を養った。

##### 次年度への課題

- 全校で1つのことに取り組むような取組を増やしたい。
- 全国的な活動を理解するために、作品展などへの応募を増やしたい。

##### ◆さくら学習



不要物から学校の鍵用のキーホルダーを作成  
([「リサイクル・メイク2」講座])



海外の料理を調理([「国際理解」講座])



鹿折川の生物調査([「鹿折川の環境」講座])

# 03 松岩中学校

主なESD領域

福祉

## 福祉の里づくり

—助け合い、よりよく生きる—

### 1 実践の概要・ねらい

活動を通して、学びやものの考え方を身に付けさせ、福祉について考えさせる。

### 2 実践計画

#### ■ 仲間づくり・互いを知るために 1 学年

- 気仙沼支援学校との交流活動を通して、主体的、創造的な態度や問題解決能力を育てる。
- 気仙沼支援学校について知り、互いに認め合い、協力し合う意識を育てる。

| 活動計画     |                             |                                             |                                                       |                                                 |                                    |
|----------|-----------------------------|---------------------------------------------|-------------------------------------------------------|-------------------------------------------------|------------------------------------|
| 評価の観点の記号 |                             | ◇学習への意欲・態度 ◆課題の選択・設定 △課題の解決 ▲自己の生き方 ◎教師の支援  |                                                       |                                                 |                                    |
| 月        | 学習内容 (学習方法)                 | 学習活動                                        | ねらい                                                   | 評価規準                                            | 他領域との関連                            |
| 4        | ガイダンス                       | 今年度の総合的な学習の時間の進め方について確認。                    | 総合的な学習の時間の概要を知らせ、学習に対する意欲を向上させる。                      | ◇テーマに関心をもつことができたか。<br>◎ポイントをまとめた資料提供ができたか。      |                                    |
| 5        | 支援学校との交流活動 (運動会総練習交流)       | 支援学校運動会の総練習で、準備や応援などを通して交流。                 | 積極的な交流活動をしなが<br>ら、今後自分たちにどのよう<br>な支援ができるのかを考えさ<br>せる。 | ◇意欲的に活動に参加できた<br>か。<br>◆自分にできる支援について<br>考えたか。   |                                    |
|          | 福祉やノーマライゼーションについて知る (福祉講話)  | 講話を聞き、自分の感想をま<br>とめる。                       | 福祉に対する基本的な考え方<br>を身に付けさせる。                            | ◇関心をもって講話を聞いた<br>か。<br>◆福祉に対する自分の関わり<br>方を考えたか。 | 【道徳】<br>「思いやり」<br>「公德心」            |
| 7        | 支援学校との交流活動 (レクリエーション交<br>流) | 支援学校との交流を行い、こ<br>れまでの活動を振り返る。               | 自分の課題をもって交流し、<br>具体的な自分にできる支援を<br>考えさせる。              | ◇意欲的に活動に参加できた<br>か。<br>◆自分にできる支援をより詳<br>細に考えたか。 |                                    |
| 9        | 探究学習 (個人テーマの設定)             | 支援学校との交流体験を生か<br>すような、福祉学習に対する<br>個人テーマの決定。 | 主体的に適切な個人テーマを<br>決めさせる。                               | ◆適切なテーマが設定できた<br>か。<br>◎考えたテーマが適切かアド<br>バイスする。  |                                    |
| 10       | 支援学校との交流活動 (グランドゴルフ交流)      | 自分の課題をもって、支援学<br>校とのグランドゴルフ交流を<br>行う。       | 自分の考えた支援方法が適切<br>かどうか、交流を通して確認<br>させる。                | ◇意欲的に活動に参加できた<br>か。<br>△課題を解決する適切な方法<br>を見つけたか。 | 【体育】<br>「準備運動」<br>「グランドゴルフの仕<br>方」 |
|          | 探究学習 (個人テーマに<br>基づいた探究活動)   | 個人テーマによる探究活動を<br>行う。                        | 調査や体験などを工夫して探<br>究活動させ、適切にまとめさ<br>せる。                 | ◇工夫して探究活動したか。<br>▲自分の今後の福祉への関わ<br>り方を考えたか。      | 【国語】<br>「言語活動」<br>「発表の仕方」          |
| 11       | 支援学校との交流活動 (クリスマス交流)        | 自分の課題をもって、支援学<br>校とのクリスマス交流を行う。             | 自分の考えた支援方法が適切<br>かどうか、交流を通して確認<br>させる。                | ◇意欲的に活動に参加できた<br>か。<br>△課題を解決する適切な方法<br>を見つけたか。 | 【美術】<br>「カードの作成」                   |
| 12       | 探究学習 (個人テーマに<br>基づいた探究活動)   | 個人テーマによる探究活動を<br>行う。                        | 調査や体験などを工夫して探<br>究活動させ、適切にまとめさ<br>せる。                 | ◇工夫して探究活動したか。<br>▲自分の今後の福祉への関わ<br>り方を考えたか。      | 【国語】<br>「言語活動」<br>「発表の仕方」          |

#### ■ 先人に学ぶ 2 学年

- 地域の高齢者との交流活動を通して、主体的、創造的な態度や問題解決能力を育てる。
- 地域の高齢者福祉について知り、互いに認め合い、協力し合う意識を育てる。

| 活動計画     |                                   |                                                       |                                                                                            |                                                                                                         |                                        |
|----------|-----------------------------------|-------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------|
| 評価の観点の記号 |                                   | ◇学習への意欲・態度 ◆課題の選択・設定 △課題の解決 ▲自己の生き方 ◎教師の支援            |                                                                                            |                                                                                                         |                                        |
| 月        | 学習内容 (学習方法)                       | 学習活動                                                  | ねらい                                                                                        | 評価規準                                                                                                    | 他領域との関連                                |
| 4        | ガイダンス                             | 今年度の学習の内容と、3年<br>間の学習の流れについて確認。                       | 総合的な学習の時間の概要を<br>知らせ、学習に対する意欲を<br>向上させる。                                                   | ◇テーマに関心をもつことが<br>できたか。<br>◎ポイントをまとめた資料提<br>供ができたか。                                                      |                                        |
| 5        | 福祉やノーマライ<br>ゼーションについて知る<br>(福祉講話) | 講師から福祉について講話を<br>聞き、講演後教室で感想等を<br>まとめる。               | 福祉について関心を抱かせ、<br>福祉の概要を理解させる。                                                              | ◇真摯な態度で講演会に参加<br>したか。<br>◇福祉について関心をもつこ<br>とができたか。                                                       | 【道徳】<br>「思いやり」<br>「公德心」                |
| 6        | 探究学習 (個人テーマの設定)                   | 高齢者施設訪問に向けての個<br>人テーマを考え、グルーピン<br>グをする。<br>学習の計画を立てる。 | 講話で得た知識をもとに、施<br>設訪問に向けて、適切なテー<br>マを設定させる。                                                 | ◆適切なテーマ設定ができた<br>か。<br>◇グループで協力し合って学<br>習を進められたか。                                                       | 【国語】<br>「話し合い活動」                       |
| 7        | 探究学習 (個人テーマに基づいた<br>探究活動)         | グループ毎に、テーマに基づ<br>いて探究活動を行う。<br>施設訪問に向けての準備。           | 福祉施設訪問に向けて、さま<br>ざまな視点、方法で探究活動<br>を行わせる。                                                   | ◆テーマに適した視点や方法<br>で活動できたか。<br>◇グループで協力し合って学<br>習を進められたか。                                                 | 【国語】<br>「話し合い活動」                       |
| 9        | 高齢者との交流                           | テーマに基づいて、高齢者と<br>交流体験を行う。                             | 訪問のマナーを守らせ、高齢<br>者との接し方を学ばせる。                                                              | ◇マナーを守り、積極的に活<br>動できたか。<br>△テーマにそった調査・交流<br>活動ができたか。                                                    | 【家庭】<br>「家族と家庭生活」<br>【道徳】<br>「思いやり、礼儀」 |
|          | 活動報告 (文化祭発表準備)                    | 探究活動や交流活動で得たも<br>のをまとめ、発表の準備を行<br>う。<br>活動を文化祭で発表する。  | 調査結果から課題を見つけ、<br>自分たちの将来と結びつけて<br>考えさせる。<br>調査したことを、精選し適切<br>にまとめさせる。自分のこと<br>ばでしっかり発表させる。 | ◇グループで協力して活動に<br>取り組むことができたか。<br>△交流を通して学んだことを、<br>適切な方法でまとめること<br>ができたか。<br>△わかりやすく工夫を凝らし<br>た発表ができたか。 | 【国語】<br>「表現能力」<br>「情報選択能力」             |
| 10       | 活動報告 (文化祭発表)                      |                                                       |                                                                                            |                                                                                                         | 【数学】<br>「データ処理」                        |
| 11       | 学習のまとめ                            | 学習全体を振り返り、学習の<br>まとめを行う。                              | 福祉の考えを深め、学んだこ<br>とを自分の生き方に反映させ<br>る。                                                       | ▲社会の一員として、高齢者<br>福祉を身近な問題としてと<br>らえることができたか。                                                            |                                        |

#### ■ 市への提言 3 学年

- 地域福祉の現状を知り、他地域と比較することで、地域の今後の課題について考えさせる。
- 探究活動から得たものをもとに、市への提言として自分の考えをまとめさせる。

| 活動計画     |                                   |                                                               |                                                                                            |                                                                                           |                                                   |
|----------|-----------------------------------|---------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------|
| 評価の観点の記号 |                                   | ◇学習への意欲・態度 ◆課題の選択・設定 △課題の解決 ▲自己の生き方 ◎教師の支援                    |                                                                                            |                                                                                           |                                                   |
| 月        | 学習内容 (学習方法)                       | 学習活動                                                          | ねらい                                                                                        | 評価規準                                                                                      | 他領域との関連                                           |
| 4        | ガイダンス                             | 今年度の総合的な学習の時間の進め方について確認。                                      | 総合的な学習の時間の概要を<br>知らせ、学習に対する意欲を<br>向上させる。                                                   | ◇テーマに関心をもつことが<br>できたか。<br>◎ポイントをまとめた資料提<br>供。                                             |                                                   |
| 5        | 福祉やノーマライゼー<br>ションについて知る<br>(福祉講話) | 講師から福祉について講話を<br>聞き、講演後教室で感想等を<br>まとめる。                       | 福祉の概要を理解させ、福祉<br>に関する基本的な考え方を身<br>に付けさせる。                                                  | ◇関心をもって講話を聞いた<br>か。<br>◆福祉に対する自分の関わり<br>方を考えたか。                                           | 【道徳】<br>「思いやり」<br>「公德心」                           |
| 9        | 探究学習 (個人テーマの設定)                   | 学年のテーマにそった個人<br>テーマ設定し、学習の計画を<br>立てる。                         | 講話や2学年の職場体験、資<br>料等で得た知識をもとに、適<br>切な個人テーマを設定させる。                                           | ◆適切なテーマ設定ができた<br>か。<br>◎設定したテーマが適切かアド<br>バイスする。                                           | 【社会】<br>「資料の活用」                                   |
| 10       | 探究学習 (個人テーマに基づいた<br>探究活動)         | 個人毎にテーマに基づいて探<br>究活動をする。                                      | 市への提言にむけて、さまざ<br>まな視点、方法で探究活動を<br>させる。                                                     | ◆テーマに適した視点や方法<br>で活動できたか。                                                                 | 【技術】【国語】<br>「情報収集」                                |
|          | 活動報告 (文化祭発表準備／発<br>表)             | 探究活動で得たことから自分<br>たちの将来や、あるべき市の<br>姿について自分の考えをまと<br>め、新聞形式で発表。 | 調査結果から課題を見つけ、<br>考えさせる。<br>調査したことを精選し、適切<br>にまとめさせる。<br>自分の今後の福祉への関わり<br>方を考えることができた<br>か。 | ◇工夫して探究活動を行っ<br>たか。<br>△分かりやすくまとめ、発表<br>することができたか。<br>▲自分の今後の福祉への関わ<br>り方を考えることができた<br>か。 | 【国語】<br>「表現能力」<br>「情報選択能力」<br><br>【数学】<br>「データ処理」 |
| 11       | 学習のまとめ                            | 学習全体を振り返り、学習の<br>まとめを行う。                                      | 福祉の考えを深め、学んだこ<br>とを自分の生き方に反映させ<br>る。                                                       | ▲社会の一員として、福祉を<br>身近な問題としてとらえ、<br>自分の考えをもつことがで<br>きたか。                                     |                                                   |

## 実践の評価について

- ◎それぞれの内容毎に評価基準をもとに、生徒の様子を観察したり、探究活動の報告書等からの変容をとらえたりして、データを蓄積していく。
- ◎文化祭を表現・発表の場ととらえ、それぞれから福祉を学び、感じたことをさまざまな形で表現・発表し、自分の考えを広く発信させる。また、他の発表を見聞きすることで、福祉に対する自分の考えをさらに深め、自己の学びにつなげさせる。

## 3 今年度の実践

## 計画からの追加・変更点

- 先人に学ぶ (2 学年)
  - 福祉施設訪問の代わりに、高齢者の方を本校に招いて活動した。

- 市への提言 (3 学年)
  - 3年生の福祉講話を5月から7月に変更した。

## 実践の成果

- 仲間づくり・互いを知るために (1 学年)
  - 支援学校との交流が特別なことではなく、当たり前のこととしてとらえ、自然に会話し行動をともにすることかできるようになった。

- 先人に学ぶ (2 学年)
  - 高齢者と話をしたり、いろいろなことを教わることで、歳を重ねることの良さや大変さを理解することができた。

- 市への提言 (3 学年)
  - 福祉について探究し、自分の考えをもったことで、普段の教科の授業の理解につながった。

- 全体について
  - 探究活動において、情報の集め方やまとめ方、発表の仕方について工夫することができた。
  - 教員が活動の進め方について今まで以上に深く考え、内容を吟味するようになった。

## 次年度への課題

- 活動内容が広がってきたが、時数の確保が難しい。
- 学んだこと、考えたことを外に発信していくことが必要。
- 体験を通して学んだこと、考えたことを実践する場、確認する場を設定する。(体験学習サイクル)
- 教科との関連の更なる強化。
- 地域との連携の強化。



気仙沼支援学校とのレクリエーション交流。  
(1 学年:仲間づくり・互いを知るために)



気仙沼支援学校とのグランドゴルフ交流。中国教職員が視察。  
(1 学年:仲間づくり・互いを知るために)



高齢者の方から戦争体験や昔の暮らしの様子などの聞き取り。  
(2 学年:先人に学ぶ)



市福祉事務所の職員から、気仙沼市の福祉の現状についての講話。(3 学年:市への提言)

## 04 はし かみ 階上中学校

主なESD領域

防災

私たちは未来の防災戦士  
ー持続可能な社会のためにー

## 1 実践の概要・ねらい

災害発生時に、家庭や地域で、自分たち中学生ができることは何か、地域の一員として地域住民と協力してできることは何かについて、「自助」「公助」「共助」の視点から考え、防災意識を家庭から地域へ波及できる防災リーダーを育成する。「自助」、「公助」、「共助」を3年1サイクルで実施し、災害発生時に対応できる力を養う。

## 2 実践計画

- 自 助 (2008 年度)
 

自分たちの安全は自分たちで確保するという視点から、災害発生時の被害を最小限にするために自分たちで事前に行えることを考え実践した。
- 公 助 (2009 年度)
 

気仙沼消防署をはじめ多くの関係機関の協力のもと、その活動を見学・体験することにより、災害発生時の公助に対する理解を深めることをねらいとして実践した。
- 共 助 (2010 年度)
 

地元の自治会、婦人防火クラブ、消防団等、地域の関係機関や地域住民の協力を得て、災害発生時にともに支援し合いながら、自分たちにできることを考え実践する。

## 実践の評価について

- ◎知識・理解
  - 災害発生時のメカニズムや災害発生時に、自分たちができる活動についての正しい知識と理解を深めることができる。
- ◎判断・技能
  - 災害発生時に自分の状況を的確に判断したり、災害発生後に自分や家族を守ったりするための必要な技能を身に付けることができる。
- ◎相互扶助
  - 災害に関する講話や防災に関する講話を通して、災害発生時および発生後に欠かせない「相互扶助」の精神を養う。

## 活 動 計 画

## (2008 年度) 自 助

地域の危険箇所調査と「階上地区防災マップ」の作成  
津波による浸水予想区域や避難経路、危険箇所に加え、これまでの活動を通して学んだ、災害時の心構えを「防災3箇条」として地区ごとに考えた。防災マップは縮小印刷し、ラミネート加工して中学生と小学5・6年生の家庭と地区自治会長に配布した。

総合防災訓練  
総合防災訓練は、小学生と一緒に、緊急地震速報システムを活用した避難訓練を実施した。特別教室、体育館、体育館外通路など学校で被災した時を想定し実施した。また、自宅で被災した際を想定し、家族と一緒に安全に避難できるよう、自宅から避難所までの避難経路と地区毎の危険箇所について、地区の小学生と一緒に下校し確認した。

## (2009 年度) 公 助

防災講話  
宮城県警気仙沼警察署の協力のもと、岩手・宮城内陸地震における災害救助活動の体験談の講話をいただいた。

総合防災訓練  
◎避難訓練  
・緊急地震速報システムを活用した避難訓練を実施した。  
◎公的防災機関の活動見学  
・気仙沼消防署の協力のもと、災害時に屋上にとり残された人の救助訓練や、レスキュー隊員のロープ降下訓練の様子を見学した。また、「消火活動ブース」「救急活動ブース」「救助活動ブース」「濃煙体験ブース」の4つの体験活動を行った。  
◎各活動班の訓練  
・5つの活動班「避難所班」「炊き出し班」「テント・トイレ班」「救出班」「救護班」に分かれて活動を行った。

## (2010 年度) 共 助

防災講話  
地元防災団体による講話

総合防災訓練  
◎事前活動(災害時にできることを班毎に話し合い活動計画を立てる)  
・班毎に特徴を理解して災害時の役割を意識した活動にする。  
・防災講話より得た情報や知識を生かした活動を工夫する。  
◎訓練当日  
・避難訓練  
・地元防災機関の活動見学  
・各活動班の訓練

<避難所班> プライベート空間を意識した避難所の設営訓練  
<炊き出し班> 非常食を活用した、手軽に調理できる献立の炊き出し訓練  
<救出班> 場面を想定しての救出訓練  
<救護班> 三角巾を活用した応急手当訓練  
<テント・トイレ班> 素早くテントを張る能力、工夫したテントやトイレの設営訓練

## 3 今年度の実践

## 計画からの追加・変更点

## ■ 共 助 (2010年度)

- 「防災講話」の講師を地域の自治会長にお願いし、昭和35年に発生したチリ地震津波に関する体験講話をいただいた。
- 「総合防災訓練」当日の活動を3部構成にした。

## 実践の成果

- 防災、減災に対して、「生徒」、「教員」、「地域」が連携する意識が高まった。(点から線、線から面へ)
- 災害に関する知識や技能が向上した。
- 地域の一員としての意識が高まった。
- 命を大切にする意識が高まった。
- 仲間とのつながり、家族とのつながり、地域とのつながりが強くなった。

## 次年度への課題

- 3年間の活動を見通した計画を策定(1サイクルの計画)する必要がある。
- 地域や関係機関とのより一層の連携を図る必要がある。
- 持続可能な社会のための防災教育について、保護者への啓発と職員の共通理解が必要である。
- 防災教育を通して、具体的にどんな力を生徒に身につけさせたいのか、系統づける必要がある。

## ◆「共助」:総合防災訓練

【第1部:緊急地震速報を活用した避難訓練】  
その場の状況に応じて自分の身の安全を確保【第2部:消防訓練】  
地域住民とのバケツリレーで消火訓練【第2部:消防訓練】  
軽可搬ポンプでの放水訓練(少年消防クラブ)【第3部:総合訓練】  
大人の負傷者を担架で搬送(救出班)【第3部:総合訓練】  
負傷した足を三角巾と板で固定(救護班)【第3部:総合訓練】  
大鍋で約300人分の豚汁の炊き出し(炊き出し班)

## 活動計画(変更後)

## (2010年度) 共 助

|                                         |                              |
|-----------------------------------------|------------------------------|
| 防災講話<br>地域の自治会長による、「チリ地震津波」に関する体験講話     |                              |
| 総合防災訓練                                  |                              |
| ◎事前活動(災害時にできることを班毎に話し合い活動計画を立てる)        |                              |
| ・班毎に特徴を理解して災害時の役割を意識した活動にする。            |                              |
| ・防災講話より得た情報や知識を生かした活動を工夫する。             |                              |
| ◎訓練当日                                   |                              |
| 【第1部】緊急地震速報を活用した避難訓練                    |                              |
| ・生徒(地震避難訓練)                             |                              |
| 避難誘導訓練、簡易担架搬送・応急救護訓練、倒壊家屋救出救助訓練、救急隊引継訓練 |                              |
| ・第7分団(消防団長査閲訓練)                         |                              |
| 出動訓練、放水訓練、中継放水訓練                        |                              |
| 【第2部】消防訓練                               |                              |
| ・消火活動訓練、農園体験、消防車両見学                     |                              |
| ・軽可搬ポンプ放水訓練(階上中学校少年消防クラブ)               |                              |
| 【第3部】総合訓練                               |                              |
| ・各活動班の訓練                                |                              |
| <避難所班>                                  | プライベート空間を意識した避難所の設営訓練        |
| <炊き出し班>                                 | 非常食を活用した、手軽に調理できる献立の炊き出し訓練   |
| <救出班>                                   | 場面を想定しての救出訓練                 |
| <救護班>                                   | 三角巾を活用した応急手当訓練               |
| <テント・トイレ班>                              | 素早くテントを張る能力、工夫したテントやトイレの設営訓練 |

## 05 大島中学校

主なESD領域

環境

## ホタテ養殖と関連させた環境教育

## 1 実践の概要・ねらい

総合的な学習の時間で実践しているホタテの養殖と関連させて、私たちを取り巻く環境について考える。

## 2 実践計画

## ■ ホタテの養殖活動 (全学年)

| 実施予定日 | 学年 | 時間 | 主な作業内容                                      |        |               |
|-------|----|----|---------------------------------------------|--------|---------------|
|       |    |    | H20採苗貝                                      | H21採苗貝 | H22採苗貝        |
| 5/23  | 3  | 4  | 水揚げ/島内業者への出荷                                | 耳吊り    |               |
| 9/2   | 2  | 4  | インターネットによる販売                                |        | 稚貝の分散、垂下      |
| 11/19 | 1  | 4  |                                             | 耳吊り、垂下 | 成長のよい稚貝の分散    |
| 2/23  | 3  | 2  | 3年間の学習を振り返り、地域の指導者とともに海洋環境と地域産業の未来について話し合う。 |        |               |
| 3/17  | 2  | 4  |                                             |        | 稚貝の分散(11月の残り) |

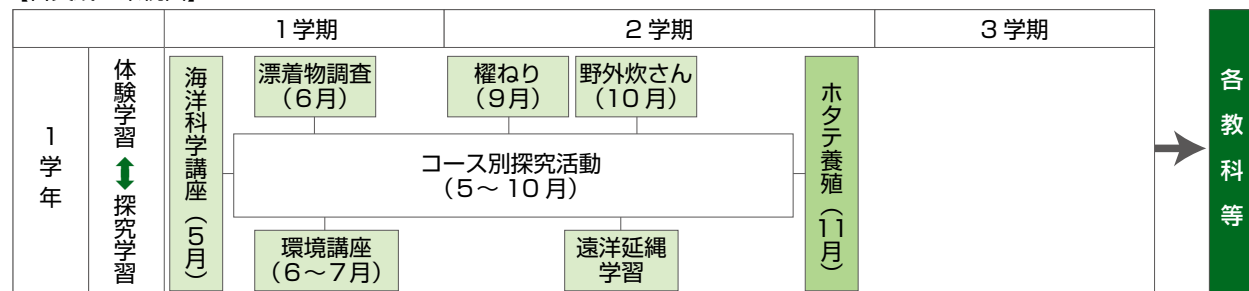
## ■ 縦割りコース別探究活動 (選択) (5~10月)

「海洋生物」コース…身近な海洋生物を調べ、生存や繁殖に適した環境について考える。  
「農業」コース…自然と共生しながら、地域産業を発展させてきた先人の知恵に学ぶ。  
「地域文化」コース…自然や社会のあるべき姿について考える。  
「身体表現」コース…環境をテーマにした演劇等の上演を行う。

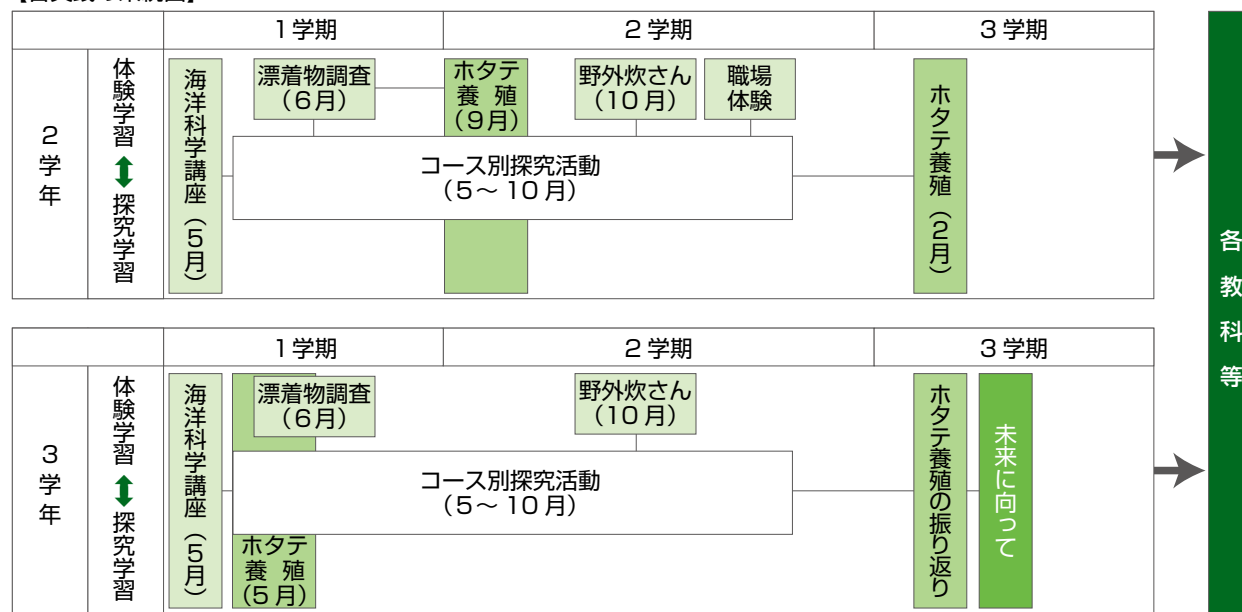
## ■ その他の環境教育活動

「海洋科学講座」(全学年、5月)……………専門家を招き、海洋科学についての講演を行う。  
「海洋漂着物調査」(全学年、6月)……………海上保安庁と協働で島の海水浴場の漂着物の調査と清掃活動を行う。  
「海洋環境講座」(1学年、6~7月)……………身近な海洋環境について基礎的な学習を行う。(3時間)  
「權ねり体験学習」(1学年、9月)……………島の漁業従事者の協力を得て、小型和船の伝統的な操作方法を習得するとともに、漁港付近の海底の観察を行う。  
「野外炊さん活動」(全学年、10月)……………島の自然を堪能しながら野外炊さんを行うとともに、海浜の清掃活動を行う。

## 【各実践の系統図】



## 【各実践の系統図】



## 実践の評価について

◎各活動を通して、私たちを取り巻く自然や社会への理解を深めるとともに、あるべき未来の姿について主体的に考え、持続可能な社会の構築を模索することができたか。

## 3 今年度の実践

## 実践の成果

## ■ 生徒について

- 地域の「よさ」について認識を深めることができた。
- 地域の産業を発展させようとする意欲が見られた。
- 地域の文化に対する理解を深めることができた。
- 地域の自然を保全していこうとする意欲が高まった。
- 自然環境の変化が生物に与える影響について考えることができた。

## ■ 教師について

- 学習プログラムのあり方について認識を深めることができた。
- 学校と地域の連携のあり方について学ぶことができた。

## 次年度への課題

- 学習のまとめさせ方や成果を発表する力の育成を図る。
- 講師や地域指導者との密接な連携と課題の共有化を図る。
- 現在、整備中である学習展示室の充実を図る。
- ESDの全体計画を作成したい。



1センチほどに成長したホタテ稚貝の生育環境をよくするため「分散」という作業を行った。(ホタテの養殖活動)



海上保安署の指導を受けながら、海岸に打ち上げられた漂着物を分類し、その後の環境学習に生かした。(海洋漂着物調査)



地域に伝わる伝統的な小船の操船技術を学び、地域を支えた産業や人々の暮らしの一端について考えた。(くまぐり体験学習)

## 06 条南中学校

主なESD領域 国際理解

## 国際社会の一員としてふさわしい人になろう

## 1 実践の概要・ねらい

自分の住んでいる地域、自国のよさを知り、気仙沼から世界を見つめ、地球視野的で多様な文化や価値観、生き方をもつ人々と歩み寄り、ともに生きていける力を育む。

気仙沼在住の外国人の方などから異文化を学び、国際理解の意識を高めさせる。

調べ学習や体験活動などの学習活動を通し、国際社会の一員としての資質を身に付けさせる。

## 身につけさせたい力について

- 自ら課題を発見し、探究する力…判断力、課題発見力、思考力、行動力、課題解決力、自己教育力、国際理解力・実践力、類似点や相違点を見出す力
- 積極的に人とふれあう力…自制心、協調性、思いやり、マナー、正しい言葉遣い、積極性、謙虚さ、コミュニケーション能力、それぞれの文化を尊重しあう態度
- 分かりやすく表現し伝える力…言語活動、表現力、向上心、自信、創造力、想像力、他から学ぶ姿勢、多角的・多面的なとらえ方

## 2 実践計画

■ 縦割りコース別活動 選択

「自然」、「文化」、「生活」の3つのテーマから毎年講座を開設し、そこからいくつかのテーマにそった「ジャンルテーマ」を設定する。生徒は、講座を選択し、さらにジャンルテーマ毎に別れ、それぞれ縦割りで調査・体験学習を行う。

## A講座：テーマ「自然」 (関連教科)理科、数学など

## ◆主なジャンルテーマ：自然、環境、災害

(実践例) 来たる宮城県沖地震に備え、普段からの防災意識の高揚や、防災対策についての体験学習を中心に行った。

また、日本や世界の地震・災害などについて調べ学習を行った。(ジャンルテーマ「災害」)

## B講座：テーマ「文化」 (関連教科)国語、英語、社会、美術など

## ◆主なジャンルテーマ：文化、歴史、産業

(実践例) 日本や世界の昔話を英訳し、紙芝居にして表現するなど、おとぎ話を通して各国の文化理解に努めた。

(ジャンルテーマ「文化」)

## C講座：テーマ「生活」 (関連教科)音楽、技術・家庭、保健体育など

## ◆主なジャンルテーマ：福祉、食、健康

(実践例) 「健康で暮らしやすい社会」という大テーマのもとにそれぞれ、国内外に目を向け、調べ学習を中心に実地調査および探究活動を行った。(ジャンルテーマ「健康・福祉」)

## 教科・領域との関連について

教科における基本的な知識・技能を習得させ、ESDの活動全般に生かす。

## 実践の評価について

## ◎累積記録

- 調べ学習の「ポートフォリオ評価」、発表作品（文化祭、プレゼン等）、講座発表会、感想文、調査結果

## ◎アンケートの活用

- 事前事後の意識調査の変容、理解・態度の到達度（4段階）、感想や実施内容における効果や身についたことの具体的記述

## ◎評価票（自己評価）の活用

- 教師側の「活動計画・実施に関する評価」
- 生徒の「総合的な学習の時間の自己評価」

## 活動計画

## 縦割りコース活動

| 月  | テーマ      | 主な活動内容                 |
|----|----------|------------------------|
| 5  | ESDガイダンス | 講座の説明 / 希望調査           |
| 6  | ESD課題設定  | 調べ学習 / 実地調査 / 体験活動     |
| 7  | ESD深化・発展 | 調べ学習 / 実地調査 / 体験活動     |
| 9  | ESD深化・発展 | 調べ学習 / 実地調査 / 体験活動     |
| 10 | ESDまとめ   | 発表準備（前日） / 文化祭発表 / 反省会 |

## 3 今年度の実践

## 計画からの追加・変更点

## ■縦割りコース別活動（選択）

今年度は、以下の3つのコースの講座を実施した。

## A講座：テーマ「自然」

## ◆主なジャンルテーマ：統計、防災

（実践例）

- 緊急の際のAEDの使い方や、「サバ飯」の作り方を寸劇にし、文化祭のステージ発表で披露した。（ジャンルテーマ「防災」）
- ◎関連教科：理科、数学、保健体育など



文化祭でのステージ発表  
（ジャンルテーマ：防災）

## B講座：テーマ「文化」

## ◆主なジャンルテーマ：気仙沼と文学、外国の文化、日本と中国の歴史、書

（実践例）

- 気仙沼を題材とした文学作品（俳句・短歌・詩・民話）を味わい、創作活動を行った。（ジャンルテーマ「気仙沼と文学」）
- メキシコ料理（ギョズレメ、アトレ）に挑戦。他国の文化について調査・体験活動を通して異文化理解に努めた。（ジャンルテーマ「外国の文化」）

◎関連教科：国語、英語、社会、美術など



メキシコ料理  
（ジャンルテーマ：外国の文化）

## C講座：テーマ「生活」

## ◆主なジャンルテーマ：気仙沼と古典文化・芸術、音楽と生活、気仙沼の歩き方

（実践例）

- 能楽師親世流師範のお宅を訪問し、能の鑑賞や質疑応答を通して古典文化への理解を深めた。（ジャンルテーマ「気仙沼と古典文化・芸術」）
- 創作ミュージカル「オレンジ・オブ・ザ・ミュージック」を文化祭で披露した。（ジャンルテーマ「音楽と生活」）
- 他の地域や外国へ発信することを考えて、オリジナルのガイドブックを作成した。（ジャンルテーマ「気仙沼の歩き方」）

◎関連教科：社会、美術、音楽、技術・家庭など



能楽師範宅訪問の様子  
（ジャンルテーマ：気仙沼と古典文化・芸術）

## 実践の成果

- 講座数を増やし、生徒の選択幅を広げたことにより、生徒の興味・関心に応じ、多様な学習活動を展開できるようになった。
- 自分の地域を改めて見直す機会となり、「ふるさと気仙沼」のよさをあらためて知り得ることとなった。
- リーダーシップを発揮する姿や、友人と協力しながら作品を作り上げる姿などが見られ、他との協調性やコミュニケーション能力が向上した。
- 外部講師を迎えたことや、訪問などの調査・体験活動を行ったことは、新しい分野との出会いや視野を広げ、理解を深める機会となった。
- 情報や資料を適切に用いて、表現方法を工夫しながら意欲的に課題の解決に取り組んだ生徒が多かった。また、作品を創り上げる喜びを味わった。
- 生徒のモチベーションが発揮され、得意分野を生かした主体的な取組が見られた。
- 教師が専門性を生かした講座を担当したことにより、より専門的な支援が可能となった。

## 次年度への課題

- 指導者・講師の先生の開拓と予算の確保。
- 今年度の活動を、次年度どのように持続・発展させていくか。
- 講座間の連携や交流活動の展開とその方法について検討。
- 学校行事との関連性を考慮した時間配分の設定。
- ねらいに迫るための指導計画や内容発表の工夫。
- 調べ学習で、資料やコンピュータなどが不十分なことにどう対応していくか。



「自分達の俳句編」  
（ジャンルテーマ：気仙沼と音楽）



創作ミュージカル  
（ジャンルテーマ：音楽と生活）



オリジナルのガイドブック  
（ジャンルテーマ：気仙沼の歩き方）

## 07 おも せ 面瀬中学校

主なESD領域

環境

## 持続可能な社会を担う生徒の育成

—環境教育を踏まえた教科と総合的な学習の時間における学習カリキュラム及び授業づくりを通して—

## 1 実践の概要・ねらい

昨年度より、気仙沼ESD/ユネスコスクールの実践を図るために、校内研究の対象として取り組んでいる。3年間の継続的な研究を通して、「持続可能な社会を担う生徒の育成」を図る。本年度はその2年次に当たり、「環境教育を踏まえた教科と総合的な学習の時間における学習カリキュラム及び授業づくりを通して」を副題として取り組んでいく予定である。

## 昨年度の実践について

教職員対象のESD研修会等を実施した（各種研修会、授業研究会、先進地視察など）。また、ESDを校内研究の対象とし、年間計画の中に位置づけ全職員で取り組んだ。

## ■ 総合的な学習の時間（ふれあい・創造の時間）によるコース別学習

## ◆国際理解コース

- 他国についての食文化などテーマを決め、調べ学習を行い模造紙にまとめる。
- 異文化や国際的な諸問題について各自が興味をもったことを調べて発表する。

## ◆郷土芸能コース

- 地域の伝統芸能について理解を深めると共に、文化祭での発表に向けて自分たちで課題に気付かせ、地域の協力を得ながらよりよい発表になるよう探究する。
- 伝統である太鼓を通して郷土芸能に触れ、さらに後輩に良き伝統を受け継ぐ。
- 打ち囃子の習得、地域の方々とのふれあい。

## ◆環境エネルギーコース

- 環境エネルギーの中から「昔のリサイクルの事情等」「リユース・リデュース・リサイクル」「新エネルギー」の3つのテーマについて調べ学習をし、自分たちがこれからできること等を探る。
- 環境を守るためのエネルギーについてインターネット等で調べ、模造紙・模型等で発表する。

## ◆健康コース

- インドや中国に起源をもつヨガや太極拳を学習する。
- ヨーガや太極拳の健康との関わりを学習し、自分の健康を考える。
- 太極拳の講師を招き実技を行う。

## ◆平和学習コース

- 現在の国際情勢を、新聞記事から追究したり、過去（近代）の戦争や、世界平和に向けて自分にできることを追究したりする。
- ビデオや新聞から、過去や現在の戦争について知り、その中から自分たちでさらに知りたいことや伝えたいことを調べまとめていく。

## ◆環境アートコース

- 地域の方々（保護者等）から面瀬の未来に残したい曲のアンケート調査をし、集計をする。
- 演奏班、アナウンス班、音の採取班、BGM班に分かれて、練習、準備、編集、発表をする。
- 廃材をリサイクル活用した立体のオブジェを作成し、自然環境について考え、その思いを美術作品として展示発表する。

## 2 実践計画

## ■ 校内研究の継続

「持続可能な社会を担う生徒の育成」を継続研究とし、環境教育を踏まえた各教科及び総合的な学習の時間におけるカリキュラムの作成並びに5つの力の向上を目指した授業作りを、実践を通して検証していく。

## ■ 小学校との連携

面瀬小学校との連携について再検討を図る。

## ■ インターネットテレビ会議システムの活用

活用について再検討を図る。

## 実践の評価について

◎生徒の変容についての評価・検証

- アンケート調査を実施し、その結果について研究会等で分析し、評価と検証を行う。

◎教師、保護者の意識の変容についての評価・検証

- 教師については、学校運営の職員評価を通じた反省会、保護者については学校評価アンケートに本研究に関する項目を設け、5段階で評価し検証する。

## 3 今年度の実践

## 計画からの追加・変更点

## ■ 総合的な学習の時間（ふれあい・創造の時間）によるコース別学習

- 「環境エネルギーコース」、「平和学習コース」、「環境アートコース」を変更し、「中国交流コース」、「芸術コース」、「演劇コース」を新設。
- ◆中国交流コース
  - 姉妹都市である中国舟山市との交流に参加した生徒たちを中心に、気仙沼市と舟山市との歴史的なつながりやその他の内容について調べ学習を行った。
- ◆芸術コース
  - 廃材を利用して楽器を制作し、合奏した。
- ◆演劇コース
  - 環境問題をテーマに生徒たちが脚本を作成し、文化祭で発表した。

## ■ インターネットテレビ会議システムについて

- 計画案を検討中につき、今年度は実践に至っていない。

## 実践の成果

- 総合的な学習の時間（ふれあい・創造の時間）においては、ESDを踏まえたコース内容を設定しており、これまで構築してきたカリキュラムを基に、生徒や教師の実態に合わせながら、流動的に内容を変化させることができるようになってきた。終了後の反省を見ると、どのコースにおいても生徒たちは達成感を感じており、目標は概ね達成できているようだ。また、「持続可能な社会を担う生徒の育成」を継続研究とし、環境教育を踏まえた各教科及び総合的な学習の時間におけるカリキュラムの作成並びに5つの力の向上を目指した授業作りを、研究授業等で実践、検証してきた。その中で、教材提示の工夫、発問の吟味、さらにはPC室や電子黒板等の教材機器を活用しながら、少しずつ目標に迫ってきている。

## 次年度への課題

- 面瀬小学校との連携の在り方について再検討を図り、研究主任同士の小会議の実施や、校内研究の交流、研究授業等での交流を図るなど、具体的な取組をスタートさせたが、十分とは言えなかった。スモールステップでスタートさせているので、来年度も少しずつ連携を強めていきたいと考えている。また、インターネットビデオ会議については、海外との交流を前提として検討してきたが、連携校の選定や言葉の問題、交流の内容等、課題点も多いために再検討が必要である。



ゲストティーチャーから中国舟山市について話をうかがう。  
(中国交流コース)



環境をテーマに美しい環境を未来へ残そうといった内容の脚本を制作し、文化祭で演劇発表した。(演劇コース)



地域に伝わる伝統の打ち囃子を教えていただき、文化祭で発表した。(伝統芸能コース)



校内研究の流れや方向性について話し合い、プレゼンテーションで、研究の流れ等を確認した。(校内研究会)

## 08 にい つき 新月中学校

主なESD領域

地域理解

キャリア

## 生き方を学ぶ

—過去・現在そして未来へ—

## 1 実践の概要・ねらい

本校では、これまで「総合的な学習の時間」で、「たたら製鉄」と「キャリア教育」を主として行ってきた。

「たたら製鉄」は、新月地区の先人たちが、大川流域の砂鉄を採集し、手製の製鉄炉で鉄を取りだし、鎌や鋏に加工した歴史があった。それを中学生に体験させて、先人の知恵を学ばせたいと考え、地域の方々の協力のもと、創立当時から現在まで続いている学習である。2年前から、1学年の総合的な学習の時間に取り入れている。

2学年、3学年は、「キャリア教育」に取り組んでいる。2学年は、主に10月に行われる「職場体験学習」のために職業調査、面接等を行って、当日を迎える。10月の文化祭では、その成果を発表するとともに、11月では、全員が保護者の前で発表している。3学年は、修学旅行の時、東京都内での職場見学を実施し、より深く職業を理解させている。

## 2 実践計画

昨年度のユネスコスクールへの加盟登録を機に、ESDの意味等を職員で学習した結果、より充実した継続性のある活動を考え、実践するために改善策を講じた。今年度は、「たたら製鉄」と「キャリア教育」「志教育」など昨年度までの学習を基本にしなが、3年間の学習に関連性をもたせている。3年間のスパンの中で、生徒が自分自身を見つめ、志をもって将来を切り開いていこうとする意志を育成し、それらを表現する場を設定することにより、持続可能な社会作りのための担い手作りを目指したいと考えている。今年度はその初年度である。

## ■ ふるさとを学ぶ(過去) 1学年

- ふるさと教育／たたら製鉄／しめ縄作り

## ■ はたらく人々から学ぶ 2学年

- キャリア教育前半／職場体験学習4日間

## ■ 生き方を考える 3学年

- キャリア教育後半／志教育／立志式

## 実践の評価について

## 観点

- ◎課題設定の能力
  - ◎問題解決の能力
  - ◎学習への主体的・創造的な態度
- これらを文章で記述。



【たたら製鉄】手製の製鉄炉を作り、火入れをする。  
(1学年:ふるさとを学ぶ)



【職場体験学習】保育所での職場体験。  
(2学年:はたらく人々から学ぶ)



【職場訪問】修学旅行時の職場体験。  
(3学年:生き方を考える)

## 3 今年度の実践

## 計画からの追加・変更点

## ■ ふるさとを学ぶ(過去) 1学年

- 「しめ縄作り」は、日程の都合で実施しなかった。

## 実践の成果

## ■ ふるさとを学ぶ(過去) 1学年

- 生徒たちの地域文化への興味・関心の高まりとともに、社会科の歴史や理科との横断的な学習によって、教科での理解も深まった。

## ■ はたらく人々から学ぶ 2学年

- 4日間の「職場体験学習」を通して、生徒たちは、社会で働く厳しさや社会人の責任感の強さを実感し、学校では学べない「生きる力」を身につけた。また新聞作りや発表を通して、表現力も身についた。

## ■ 生き方を考える 3学年

- 修学旅行時に実施した「職場訪問」を通して、生徒たちは、「仕事を通した生き方」を学ぶことができた。また、今年度初めて取り組んだ文化祭での「立志式」は、ひとりひとりが自身のこれからの「生き方」を発表し、将来について深く考えるよい機会となった。

## 次年度への課題

## ■ ふるさとを学ぶ(過去) 1学年

- 「たたら製鉄」だけでなく、地域の伝統・ふるさと教育について、多様な活動に取り組みたい。

## ■ はたらく人々から学ぶ 2学年

- 職場体験学習は、今年度は4日間にのぼして実施した。生徒の充実感は大きかったが、各事業所との継続的な協力体制を固める必要がある。

## ■ 生き方を考える 3学年

- 「立志式」について、1年を通した指導計画を立て、より充実させ、発展させていきたい。



【たたら製鉄】砂鉄採集の様子。  
(1学年:ふるさとを学ぶ)



【職場体験学習】飲食店での職場体験。  
(2学年:はたらく人々から学ぶ)



【立志式】文化祭での立志式の様子。  
(3学年:生き方を考える)

## 09 唐桑中学校

主なESD領域

環境

エネルギー

## 2050年 私たちのエネルギーについて考えよう

一ふるさとを愛し、夢や志、プラスの気付きをもって学び、考えを発信していく  
エネルギー学習—

## 1 実践の概要・ねらい

持続的・発展的な社会をつくるため、ふるさとを思いながら、夢や志、プラスの気付きをもってエネルギーについて学習し、考えを発信していく。

## 2 実践計画

## 実践テーマ

持続的・発展的な唐桑地域をつくるために、地域のエネルギーのあり方について考えよう

## ■ 地域を知ることと物質の循環 1学年

## ■ リサイクルとエネルギー問題の実際 2学年

## ■ 2050年 私たちの唐桑 3学年

## 実践の評価について

◎総合的な時間については、次の評価項目により評価を行う。

- 主体的・創造的態度…主体的に、創造的に課題に取り組む関心・意欲・態度
- 課題把握能力…自ら課題を発見し、考え、読み解く力
- 課題解決能力…課題を考えたり、批判的に考えたりして解決する力
- 表現能力…わかりやすく表現し、伝える力

◎教科については、教科の評価項目により評価を行う。

## 3 今年度の実践

## 計画からの追加・変更点

## ■ 実践テーマ等の変更

「ふるさと・エネルギー教育」に変更。

## ■ 地域を知ることと物質の循環 1学年

自分たちが生まれ育ったふるさと、唐桑を深く知ること  
をきっかけに、海における物質の循環、生活における物質  
の循環について、課題を見つけ、講話と体験活動から学ぶ。

## ■ リサイクルとエネルギー問題の実際 2学年

海の物質循環においてさらに理解を深めるとともに、海の  
エネルギーについて学習する。さらに、職場体験におい  
て、事業所等のリサイクル意識やエネルギー問題の実際  
について調査する。

## ■ 2050年 私たちの唐桑 3学年

リサイクル・エネルギー問題の先進地域における取組を調査する。加えて、視野を広げてエネルギーについて学び、2050  
年の唐桑のエネルギーについて考える。

## 活動計画（変更後）

## 1学年 地域を知ることと物質の循環

自然体験活動／海における物質の循環（水山養殖場）／物の循環、リサイ  
クル活動等について学ぶ／研究のまとめ（個人新聞、グループによる模造紙（新  
聞形式））と発表会

## 2学年 リサイクルとエネルギー問題の実際

海のエネルギー、海の物質循環について学ぶ（MARE）／事業所等のリサイ  
クル意識・エネルギー意識の実際について調査／研究のまとめ（個人新聞、  
グループによる模造紙（新聞形式））と発表会

## 3学年 2050年 私たちの唐桑

リサイクル・エネルギー問題の先進地域における取組を学ぶ／地球温暖化と  
世界・日本のエネルギー事情講義／原子力発電の有用性と課題／原子力発電  
所見学／放射線と放射能／環境省シナリオ ドラえもん型未来とサツキとメ  
イ型未来についての講義／課題追究活動／研究のまとめ（個人によるパンコ  
ンを使ったプレゼン形式）と発表会

## 実践の成果

- 資源・エネルギー問題が、持続的で発展的な社会をつくっていく上で、喫  
緊の問題で、自分たちにとって大きな課題であることを理解した。

## 【生徒の感想から】

- ◇資源・エネルギー問題を自分のこととして考えていかなければならないと  
思った。
- ◇地球温暖化を考えて、私たちは二酸化炭素を極力出さないような自然エネ  
ルギーの利用を考えていくべきであると思う。
- ◇原子力発電は使わないですむのならそれがよいが、現在のところ石油・石  
炭にかわるエネルギー資源が考えられない現状では仕方ないと思う。今  
後、日本の将来を担う私たちが新しいエネルギー資源を開発していく必要  
がある。

- 課題解決学習においても、インターネットや資料、パンフレット等を活用し、  
深く調べる生徒もいて、意欲・関心が高まった。
- 個人新聞、模造紙、パソコンによるプレゼンテーション等計画していたもの  
の他、英語弁論、ブログへの投稿、学級制作等様々な方法での表現力が  
身に付いた。
- 教員の研修を頻繁に行ったこともあり、教員のESD・エネルギー問題に関  
する意識が高まった。

## 次年度への課題

- 全体計画の見直しと再構築
- 情報発信の方法について
- 保護者、地域へのエネルギー学習の啓発
- エネルギー教材・教具の整備・拡充、金銭面の安定的な確保
- 指導者側のさらなる研修の必要性

## ◆3学年:2050年 私たちの唐桑

准教授から「地球温暖化・エネルギー」について学ぶ。  
（協力 東北大学大学院環境科学研究科）エネルギー（火力・水力・原子力発電）について学習する。  
（協力 東北電力）

## ◆1学年:地域を知ることと物質の循環

海に流れ込む川のはたらきから、「水の循環」について学ぶ。  
（協力 NPO法人 森は海の恋人）給食で使われた油がバイオディーゼル燃料に  
リサイクルされることを知る。（協力 NPO法人 大島大好き！）

## ◆2学年:リサイクルとエネルギー問題の実際

MARE「海を学ぶための科学教育プログラム」を活用して海の物質循環  
について学ぶ。（協力 志津川ネイチャーセンター）文化祭学級制作で  
「唐桑半島エネルギー未来予想図」を作成。

# 10こはらぎ小原木中学校

主なESD領域

食育

## 食を通して地域を学び生きる力を高めよう

### 1 実践の概要・ねらい

給食時における食に関する指導を中心に、保健指導や関連教科における指導、生徒会の野菜栽培の活動などと連携しながら、食の重要性を理解し、自ら健康の保持増進に努めることができるよう学習を行う。

また、地域の人材を活用した講話や調理実習、農園作業などを通して、身近な地域の自然や地場産品について学習し、地域を担う一員としての自覚を高め、地場産品の活用や食文化を継承していこうとする態度を養う。

- 食は、生きる上での基本であることを踏まえ、心身の成長や健康の保持増進のために望ましい栄養や食事の摂り方を理解し、自らの健康を管理・改善していく能力の基盤を身に付けさせる。
- 栄養の偏りや肥満、生活習慣病の増加、食の安全上の問題、さらには食の海外依存の問題などに目を向けさせ、自らの食のあり方を学ぶ態度を身に付けさせる。
- ランチルームでの給食を通して、食事のマナーや衛生管理を身に付けさせるとともに、皆と楽しく食事をすることで、好ましい人間関係作りの場としても期待できる。
- 自然の恩恵や食に関わる人々の様々な活動への理解と感謝を深めさせ、食べ物を大切にすることを育てる。
- 他地域と比較しながら身近な地域の産物や食文化の特徴を理解し、地域の一員として、地場産品の活用や食文化を継承していこうとする態度を養う。

### 2 実践計画

#### ■ ランチルームでの毎日の給食指導 【全学年・職員】

献立に関わる食材と栄養、食材の産地、料理に関わる歴史や文化などについて、生徒が当番で発表し、紹介する。(栄養士も、ランチルームの黒板に絵や文章で献立を紹介)

#### ■ 学年毎の活動 【全学年】

学年毎に食に関する実践を行う。

#### ■ 生徒会活動 【全学年】

学校農園で野菜栽培を行い、収穫した作物は、給食の食材に加える他、文化祭でも販売する。

#### 実践の評価について

##### 観点

- ◎食の大切さを自覚し、好き嫌いせずバランスを考えて食べることができるか。
- ◎食事のマナーや衛生に気を付けて、楽しく食事をすることができているか。
- ◎地場産品について理解し、活用していこうとする意識が育っているか。
- ◎自然の恩恵や食に関わって活動する人々への感謝の心が育っているか。
- ◎日本や世界各地の食文化を尊重するとともに、食に関する様々な問題について関心をもって考えようとしているか。

##### 方法

- ◎生徒・保護者への調査、職員による観察を基に評価。

#### 活動計画

##### 【全学年・職員】 ランチルームでの毎日の給食指導

◎保健衛生に関わる指導  
・給食の事前事後に当番がテーブルを拭いて衛生を保持する。また、全校生徒に給食前の手洗いを徹底し、食後は一斉に歯磨きを行う。  
◎楽しく食べるための献立の工夫  
・お楽しみ献立（月1回）、セレクト給食（随時）、バイキング給食、行事食（中総体応援メニュー、七夕給食、お月見給食、ハロウィン給食など）、「カミカミデー」（噛み応えのある献立）の設定など、栄養士の工夫により、変化をもたせた給食を実施する。

◎給食感謝の会  
・保健給食委員会が中心となって、毎日給食を作ってくれる栄養士や調理員、地場産品の食材提供者に、生徒全員で感謝の言葉を寄せ書きし、贈る会を開く。

◎地域の人による食に関する講話  
・1回目・・・地域の自然や歴史、産業などについて（1時間…7月）  
・2回目・・・農産物の栽培に関わる方から（1時間…9月）  
・3回目・・・水産業に関わる方から（1時間…11月）

##### 【1学年】（学年毎の活動）

・大川水系さけ・ます増殖協会と市水産課より食材の提供を受け、鮭のさばき方の実演を見学後、それを使って調理実習を行う。（5時間、11月～12月）  
・夏休みの課題として、「地場産品を使った料理メニュー」を考えさせ、家庭で実際に作り、料理のレシピに写真を添付した掲示物を作成して、休み明けに発表させる。  
・宮城県の地形や気候の特色、農業・水産業の特色や状況学習する。（3時間、12月）  
・植物がどのようにして栄養分を作り蓄えているのか、関連して、学校農園の作物を育てる方法について考える。（11時間、5月）

|         |        |             |
|---------|--------|-------------|
| 教科等との関連 | 家庭     | 「鮭を使った調理実習」 |
|         | 社会（地理） | 「日本の諸地域」    |
|         | 理科     | 「植物の世界」     |

### 3 今年度の実践

#### 計画からの追加・変更点

##### ■ ランチルームでの毎日の給食指導 【全学年・職員】

「地域の人による食に関する講話」の、時期および内容について下記のように変更した。

- 1回目・・・農産物の栽培に関わる方から（1時間…6月）
- 2回目・・・地域の自然について（1時間…9月）
- 3回目・・・水産業に関わる方から（1時間…12月）

##### ■ 学年毎の活動 【全学年】

夏休みの課題として予定した「地場産品を利用した料理メニュー」を、全学年の課題として実施した。

##### ■ 生徒会活動 【全学年】

地域の野菜生産者団体の方々には指導をいただき、学校農園で収穫したこんにゃくいもを使って「こんにゃく作り」体験を実施し、起業学習と連携して文化祭でこんにゃくを販売した。

#### 実践の成果

- 給食指導をととして、生徒たちは、食の大切さについて理解を深めるとともに、食事のマナーや衛生についても気を配ろうとする姿勢が見られる。また、給食に関わる人たちに感謝する心も育っている。
- 地域の自然や地場産品に対する意識が高まり、大切にしていこうとする気持ちがうかがえる。
- 学校農園でのいも類の栽培や収穫、その加工・販売を通して、自然の恩恵や食べ物に対する感謝の気持ちを深めることができた。
- 教員にもESDに対する意識の高まりがうかがえ、全職員で推進していこうという気運が出てきた。

#### 次年度への課題

- 食育を観点としたESDの更なる推進に向けて、本校のESDの全体像を、関係教科や領域等との関連も含めて明確に示す必要がある。それを全職員で共通理解し、中心となるコーディネーターの下、連携しながら計画的に進めることができるよう体制作りに努めたい。
- 本校のESDの取組について、生徒や保護者に今後も折に触れて説明し理解を図っていく必要がある。
- ESDの取組の成果を、どのように評価していくか、具体的に検討しなければならない。
- 来年度は、地域の人材を活用した体験的な学習の機会を更に増やしていきたい。

#### 活動計画

##### 【2学年】（学年毎の活動）

・世界と比較しながら、日本の農業・水産業の特色や状況について学習する。（2時間…12月）  
・食べた物がどのように消化・吸収されているのか、学習する。また、動物の中での魚の分類やその生態について学習するが、地元で稚魚の放流を行っている鮭の習性などについて取り上げる。（6時間…5・6月）

|         |        |               |
|---------|--------|---------------|
| 教科等との関連 | 社会（地理） | 「世界と日本の産業・資源」 |
|         | 理科     | 「動物の世界」       |

##### 【3学年】（学年毎の活動）

・「食生活と健康」「生活習慣病と予防」について学習する。（計3時間…6月）  
・「人口と食料問題」について学習する。（1時間…1月）  
・学校農園で栽培している野菜や、日常食べている魚について、それを増やす方法について学習する。（7時間…5月）  
・自然と人間生活の関わりについて考え、自然環境の保全の大切さを知り、何をしなければならないかを考える。（8時間…1月）

|         |        |                        |
|---------|--------|------------------------|
| 教科等との関連 | 保健体育   | 「食生活と健康」<br>「生活習慣病と予防」 |
|         | 社会（地理） | 「人口と食料問題」              |
|         | 理科     | 「生物の子孫の残し方」<br>「自然と人間」 |

##### 【全学年】 生徒会活動

学校農園で野菜栽培（じゃがいも、さつまいも、さといも、こんにゃくいも等）を行い、地域で野菜栽培を行っている方々（大槻会）の指導をいただきながら、放課後等の時間を使い、全校生徒で土おこしや種まき、水遣り、除草、収穫作業を行う。収穫した作物は、給食の食材に加える他、文化祭でも販売する。



「旬の食材と栄養」をテーマにした生徒集会の様子（保健給食委員会）



「いい歯の日」に行われた、「噛むことの効果」の発表（保健給食委員会）



バイキング給食の様子（楽しく食べるための献立の工夫）



秋鮭調理実習の様子（1学年）



こんにゃく芋の植えつけ作業（生徒会活動）



こんにゃく作り体験（生徒会活動）

# 11 おおや 大谷中学校

主なESD領域 環境

## ふるさとと私

—ふるさとを知り、ふるさとを愛し、ふるさとを創る心を育てる—

### 1 実践の概要・ねらい

本校は、地域の自然や環境に目を向けて「なみま」の中で大谷中学校環境保全計画を進めている。ハチドリ計画そのものは、かなり前からあるものでハチドリの計画にちなんで、大谷中の環境保全計画を「大谷中ハチドリ計画」としている。大谷の地域を見直し、考えていこうというハチドリ計画は、地域の林業・地域の漁業・地域の農業に目を向けることによって地域産業の活性化を図ろうという視点もふくまれている。大谷中ハチドリ計画を中心に、各学年にテーマがあり、1年生は「松枯れ」2年生は「磯焼け」3年生は「ふゆみずたんぼ」と学年毎に取り組んでいる。このテーマを受け、総合的な学習の時間「なみま」を体験的活動と探究的な活動に区分して活動している。体験的活動のねらいとして、ふるさとの自然、環境に触れ、疑問をもち、解決方法を工夫し、体験しながら課題を解決する能力を育てることを目標に実践している。

### 2 実践計画

#### ■ 松枯れ対策 1 学年

「松枯れ」は大谷地域の松枯れが深刻な状態であることを知り、大谷中学校の生徒たちは、なぜこのようなことが起こるのか、どうすればこの松枯れから大谷を守ることができるのかについて学びながら、松枯れから大谷の松林を守るための取り組みが始まった。今年度は、大谷海岸の松原再生計画を進め、下草刈りなどを中心に取り組んだ。この取り組みは大谷の林業につながるものでもある。

#### ■ 磯焼け調査 2 学年

磯焼け（「サンゴ藻（も）」という海藻が岩の表面を覆う。石灰質でできているため白く見え、他の海藻が育たない）が進んでいる大谷の海を海藻豊かな海中林（海の生き物たちがすむ海藻群落）にするためには、どうするかを考えていく取り組みである。大学教授から磯焼けがなぜ起こるのか、また海中林を再生し、守っていくにはどうするかについて教えを受け、先生方の指導を受けながら、大谷の海でどのような海藻がどれだけあるのかを調べる海藻の群落調査や磯洗いなどを続けている。漁業は大谷の主要な産業だが、農業や林業と同じように、高齢化が進み、漁業の担い手が少なくなっている。そこで、中学生ができることは何かを考えて、大谷の漁業を見つめる機会にもしている。

#### ■ ふゆみずたんぼ 3 学年

「ふゆみずたんぼ」は冬の間、田んぼに水を張ることで鳥たちが集まり、そのふんや刈り残した稲株が分解され、微生物やイトミミズの栄養源となる。そして、微生物や小さな生きものが繁殖し働くことで田んぼが耕され、天然の肥料となって、稲を育ててくれる。さらに、その小さな生き物を食べるために昆虫やクモ、カエル、鳥など、さまざまな生物が集まることで田んぼの自然のバランスが保たれ、稲を害虫や病気から守ることもつながっていく。このように、農業や化学肥料に頼らず、機械で耕すこともなく、自然の力を活かしながら、生きものの循環の中で稲を育てるのが「ふゆみずたんぼ」である。大谷中学校では、大小3つのふゆみずたんぼを使い、3年生を中心として、種粃まきから、苗代づくり、田植え、稲刈り、雑草取り、脱穀、販売まで行う中で、大谷の農業を見つめる機会にもしている。

#### 実践の評価について

◎生徒全員履修とし、原則として全職員で指導にあたる。評価にあたっては、数値では評価せず、担当者は、生徒の自己評価と活動状況をよく観察し、課題に意欲的に取り組んだことを評価する。評価は、通信票に文章で記述し、保護者に連絡する。

#### —評価の観点及び方法—

取り組みの様子や作文、資料などをもとに学期末に以下の観点で記述方式で評価。

「課題設定への取り組み」「課題解決への主体的な取り組み」「課題のまとめ方」

#### 活動計画

##### 1 学年 松枯れ対策

| 月 | 活動内容                       |
|---|----------------------------|
| 5 | 松の植樹、下草刈り（4/27）            |
| 9 | 環境講演会（5/7）／植樹の下草刈り（5/21）   |
| 1 | 植樹の下草刈り（6/17）／大谷海岸清掃（6/25） |
| 2 | 稲刈り（10/20）                 |

##### 2 学年 磯焼け調査

| 月  | 活動内容                  |
|----|-----------------------|
| 5  | 環境講演会（5/7）／海藻採取（5/20） |
| 6  | 磯洗い（6/4）／大谷海岸清掃（6/25） |
| 9  | 海藻採取（9/17）            |
| 10 | 稲刈り（10/20）            |

##### 3 学年 ふゆみずたんぼ

| 月  | 活動内容                 |
|----|----------------------|
| 4  | 種粃、苗床作り（4/30）        |
| 5  | 環境講演会（5/7）／田植え（5/31） |
| 10 | 稲刈り（10/20）           |
| 11 | 脱穀（11/5）             |
| 12 | 「大谷っ子米」試食（12/3）      |

### 3 今年度の実践

#### 計画からの追加・変更点

##### ■ 松枯れ対策 1 学年

- 松の植栽 2010・4/28 ●大谷海岸林再生 2010・6/19
- 下草刈り 2010・6/ 4

植樹は、森林組合の方にもご協力いただき行った。下草刈りは、以前に植樹した松のまわりの雑草を刈る作業を行った。大谷海岸の松林の雑木を地域の方、保護者の方と一緒に除草した。

##### ■ 磯焼け対策 2 学年

- 海藻調査 2010・6/14 ●磯洗い 2010・6/14

磯洗いは、岩場についた余分な貝殻をそぎ落とすことである。貝を取り除くことが、海藻が磯につく場所を提供することになる。海藻調査は、大学教授のご指導のもと、大谷海岸の海藻の種類を採取しながら確認した。

##### ■ ふゆみずたんぼ 3 学年

- 塩水選・温湯消毒 粃まき 苗代づくり
- 粃まき・苗作り 2010・4/30 ●生物調査 1週間に1回
- しろかき 2010・5月 ●草取り 月に1回
- 田植え 2010・5/31 ●稲刈り 2010・10/7
- 生育調査 1週間に2回 ●脱穀 2010・11/5
- 微生物調査 1週間に1回 ●販売 2010・11/23

粃まきは、小学生と一緒にいった。コーディネーターの先生のご指導のもと苗代づくりも行った。

田植えは、全校で行い幼稚園や小学校、地域の方々の手伝いももらい、300人規模になった。稲刈りや脱穀も手伝いももらいながら、販売まで実施した。

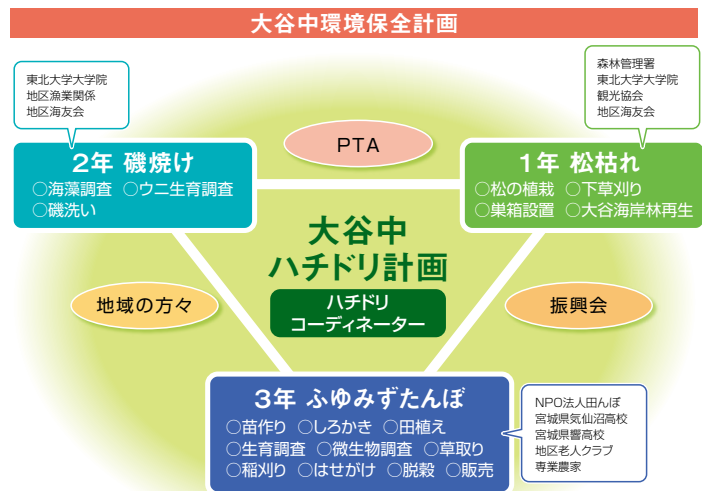
生育調査は、稲穂の成長の様子を記録した。微生物調査は、田んぼのイトミミズの数を定期的に調査して、田んぼの中の様子も記録した。生物調査は、田んぼの何力所かに仕掛けた網でどんな生物が生息しているかを調査した。

#### 実践の成果

- 環境保全活動は3年間継続して実践され、全体的に環境への意欲や関心が高まっている。
- 教師は、社会人講師や外部講師にあまり頼ることなく活動できるようになった。

#### 次年度への課題

- 大谷海岸林の再生活動は、作業をする範囲が広大なので、長期的な実施計画が必要である。
- 大谷小中の連携については、今後、事前に内容を確認し、調整が必要になってくる。



海岸林の再生活動（1 学年：松枯れ対策）



田植え（3 学年：ふゆみずたんぼ）



「大谷っ子米」の販売（3 学年：ふゆみずたんぼ）

## 01 気仙沼高等学校

主なESD領域

環境

国際理解

## 環境教育・国際理解教育

## 1 実践の概要・ねらい

自然科学部の活動や地理巡検、オーストラリアへの短期滞在などの実践を通して、自然環境や国際理解について学ぶ。

## 2 実践計画

## 環境教育

自然科学部は以前から周囲の生物について調べ、それを通して「環境」というものを考えてきた。今年度もそれを引き続き行っていく。土壌中や飼育水槽といった身近な環境に生息する微小生物、特に「殻をもつアメーバ（有殻アメーバ）」について、どのような種類がいるのか、どのような生活をしているのか調べ、この研究を通して、有殻アメーバが生態系でどのような役割を担っているのか考え、それを通して地球の生態系というものについて考えていく。

また、気仙沼地域の地理巡検を行い、三陸地方の歴史や自然環境についての知識を深める。身の回りに当たり前にある環境についてもう一度考え直し、地球規模で考えられる幅広い視野を育てられるようにする。

## 国際理解教育

3月にオーストラリアで2週間滞在し、ホームステイを行い、ハンター・クリスチャンスクールで語学研修を行う。

## 【研修のねらい】

- 人生観や世界観に広がりをもたせ、将来国際社会に対応できる人材の育成を目指す。
- 異文化での生活体験を通して、国際理解を養い、視野を広げると同時に日本人としてのアイデンティティを認識させる。
- 英語によるコミュニケーションを通じて語学研修を深め、オーストラリアの歴史・異文化理解を図る。

また、校内スピーチコンテストの実施や英検の取得を目指し、英語力の向上と興味関心の高揚を図る。

## 実践の評価について

- ◎ 環境教育…研究発表会での発表
- ◎ 国際理解教育…アンケートやレポートの提出

## 3 今年度の実践

## 実践の成果

- 環境教育、国際理解教育ともに一部の生徒対象ではあるが、参加した生徒は普段の授業に対する取組が向上した。
- 語学研修やSPP活動で得た経験を学校生活に活かし、各分野でのリーダーとして活躍した。
- 幅広い視野をもち、好奇心が向上したことで、様々なことに疑問をもつようになった。
- 問題を解決しようと自分で何かしら行動する問題解決能力が身に着いた。
- 環境教育を通じて生徒の生態系への興味関心が高まった。
- 自然科学部の取り組みから得られた知見を論文としてまとめ日本学生科学賞へ応募し、宮城県代表として中央審査へ出品された。また、日本植物学会東北支部宮城県大会において高校生のポスターの部で発表をした。

## 次年度への課題

- 一部の生徒だけではなく、全体にいかに応えていくかが今後の課題である。全国の学校では総合学習の時間を使っているところが多いが、本校ではそれが難しい。



地理巡検の様子（環境教育）



グリーンウェイブ植樹活動の様子（環境教育）



サイエンスパートナーシッププロジェクト（環境教育）

## ◆オーストラリア語学研修



## 02 気仙沼西高等学校

主なESD領域

環境

福祉

## 環境教育・福祉教育

## 1 実践の概要・ねらい

理科巡検や福祉施設での交流活動などの実践を通して、自然環境や福祉について学ぶ。

## 2 実践計画

## 環境教育

地域の海岸付近の地質、化石、海浜植物等の観察を通して、地域の地質的成り立ちや海浜植物について理解を深めるとともに、地域と自然への興味を喚起する。また、地域の公共展示施設を見学し、地域の文化と自然のかかわりへの興味を深める。昨年実施した地域と関連させて、地域全体の自然環境についてまとめる。

## 福祉教育

児童福祉施設・障がい者施設・支援学校等での見学・交流を通し、親睦を図り互いの信頼関係を築く。そして現状を知ることにより、福祉の意義や課題について理解する。また、さまざまなボランティア活動に取り組みせることにより、福祉に対する認識を深め、協調性や、共生などの意識を高める。

## 実践の評価について

- ◎環境教育…レポートの提出、定期試験における作問、各種広報誌での発表
- ◎福祉教育…レポートの提出、学修単位の認定

## 活動計画

## 環境教育

| 月 | テーマ  | 主な活動内容                                                                                       |
|---|------|----------------------------------------------------------------------------------------------|
| 4 | 事前調査 | 巡検地の下見／博物館担当者との協議／事前指導・事後指導・評価方法・実施要項の検討                                                     |
| 5 | 事前指導 | 巡検内容について事前学習（1、2学年理科）                                                                        |
| 6 |      |                                                                                              |
| 7 | 巡検実施 | 1、2学年各1日で実施（6/30、7/1）<br>唐桑（御崎）<br>…地層構造、植物の階層構造の観察、津波体験館<br>大船渡（碓石海岸）<br>…地層・断層の観察、大船渡市立博物館 |

## 福祉教育

- ◎交流会等の実施（福祉類型）
  - ・デイサービスセンターとの交流会（場所：本校）
  - ・気仙沼支援学校との交流会（6回、2時間程度）
  - ・知的障がい者通所授産施設見学
- ◎ボランティア活動（社会福祉部ほか）
  - ・児童・障がい者・高齢者施設でのボランティア活動
  - ・各施設での行事等でのレクリエーションの企画・実施
  - ・各施設との年間を通しての交流。

## 3 今年度の実践

## 実践の成果

- 地元の自然環境に対し景観を楽しむばかりではなく、科学的な視点をもって理解考察できるようになった。
- 福祉施設交流、ボランティア活動などの活動を実践する過程において、今日の福祉の現状や課題について認識を深めることができた。
- 担当教員が中心となって他の教員がその活動をサポートする協力体制により、多くの教員がESDの理念について理解を深めることができた。

## 次年度への課題

- 現行の巡検地に対する、教員側の知見の深化と新たな候補地の考慮
- 本校福祉教育活動における、関係施設や団体との相互理解の更なる向上



特別養護老人ホームの方々と実施した交流会①



特別養護老人ホームの方々と実施した交流会②



校内での福祉実習



特別養護老人ホームの方々と実施した交流会③



唐桑半島・御崎遊歩道での植物観察



唐桑半島・御崎遊歩道での地層観察



大船渡・碓石海岸散歩道での植物観察



大船渡市立博物館での研修